

# 甲南病院瓦版

## 食道裂孔ヘルニア



甲南病院 院長  
外科 山本 寛 医師

食道裂孔ヘルニアは、高齢者に多い疾患で、筋肉など支持組織のゆるみのため、胃が横隔膜を越えて胸腔内に脱出する良性疾患ですが、徐々に進行し、外科治療が必要になることがあります。

本疾患の手術症例は急速に増加しています。増加の理由はいくつか考えられますが、腹腔鏡手術の進歩により安全性が高まったことが、まず、挙げられます。傷が小さく、体に優しい手術は、手術を受ける高齢者にとって極めて大切です。食道裂孔ヘルニアの手術適応は、鼠経ヘルニア（いわゆる脱腸）と類似しており、ヘルニアのタイプやサイズ、患者さんの症状で決まることが多く、施設によって異なります。実は、この症状がくせ者で、日本人の高齢者の方々は、本当に我慢強い方が多く、嘔気・嘔吐、胸焼け、心窩部痛・胸痛などが主症状ですが、胃以外の臓器（小腸・大腸あるいは膵臓など）までもが、横隔膜を越えて胸腔内に脱出していても無症状の方もおられます。食道裂孔ヘルニアが、長い時間をかけて徐々に悪化することも、理由の一つと考えられます。しかし、手術をしてヘルニアを治療すると、隠れていた症状が劇的に改善するため、患者さんはとても喜ばれます。

職員の皆様やご家族に、このような症状を持っておられる方や、症状がなくとも亀背や肥満の患者さんは、食道裂孔ヘルニアが潜んでいる可能性が高いため、是非、外科医(山本、神谷)にご相談ください。胃カメラやCTで診断します。

2020年12月7日記